

AUTUMN 2022

とっとり 弥生の王国

青谷弥生人『そっくりさん』特集号

『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』完全レポート

「そっくりさん」は青空の先に弥生を描く ワクサカソウヘイ

『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』参加者から届いた熱いメッセージ!

新旧弥生人特別対談

最も弥生人にそっくりな現代人 吉田昌弘 × 現代に甦った弥生人 青谷上寺朗

「とっとり弥生の王国」青谷上寺地遺跡・妻木晩田遺跡をご案内



とっとり弥生の王国へようこそ

2022年5月末、鳥取県の片隅で開かれたイベントが世間をにぎわせた。イベントの名は「青谷弥生人そっくりさんグランプリ」。「青谷弥生人」とは、鳥取市青谷町^{あおやちよう}に所在する弥生時代遺跡、青谷上寺地遺跡^{あおやかみじちいせき}から出土した人骨を基に、その生前の顔を復元した「復顔像」である。その弥生人に顔が似た現代人を全国から呼び集め、最もそっくりな人を決定する。そんな人類史上初と思しきイベントが、日本列島中に大きな話題を振りまいたのだ。

実は鳥取県には、青谷上寺地遺跡^{むきぼんだいせき}と妻木晩田遺跡^{むきばんたいせき}という、全国的に有名な弥生時代遺跡が存在する。そこで、鳥取県はこれら二つの遺跡を一体的に活用・情報発信すべく、「とっとり弥生の王国」を勝手に名乗り、かれこれ二十年近くPRに努めてきた。しかし、その知名度はなかなか上がらない。そんな中、綺羅星のごとく登場したのが、件の青谷弥生人であった。2021年10月に登場するや否や人気者となり、「青谷上寺朗^{あおやかみじろう}」という名前まで頂戴した。その勢いを駆って鳥取県庁が企画・開催したのが、この奇妙なイベントなのだ。くすすと笑える話題を通じて「とっとり弥生の王国」を知ってほしい。そんな熱い思いをひっそり胸に忍ばせた、実は大真面目な行政イベント。その全貌を記録した本誌は、青谷上寺朗とそっくりさんが、あなたに宛ててしたための「とっとり弥生の王国」への招待状である。

CONTENTS

02 Special Report

『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』完全レポート

「そっくりさん」は青空の先に弥生を描く ワクサカソウへイ

09 Brief Comments

「青谷弥生人そっくりさんグランプリ」参加者から届いた熱いメッセージ!

11 Special Talk

新旧弥生人特別対談

最も弥生人にそっくりな現代人 吉田昌弘 × 現代に甦った弥生人 青谷上寺朗

13 Introductions of Archaeological Sites

「とっとり弥生の王国」青谷上寺地遺跡・妻木晩田遺跡をご案内



企画・編集／とっとり弥生の王国推進課
青谷かみじち史跡公園準備室

編集デザイン／株式会社カフカ

青谷弥生人

「そっくりさん」は青空の先に弥生を描く

—『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』完全レポート—

ワクサカソウヘイ



なんなんだ、
弥生人そっくりさん

その日の鳥取県庁の真上には、ため息が出るほどに真っ青な空が広がっていた。何千年も前にこの地に住んでいた人たちもまた同じ色の空を見上げていたんだろうなと思えるような、悠久のスケール感を描く快晴である。初夏の風が心地よく通り抜けていく。

ところが、県庁の玄関前にはなんだか妙に据わりの悪い空気が漂っていた。なぜか。

そこに続々と集いし人々、その顔が皆一様に同じトーンをたたえていたからである。
なんだ、なんなのだ。なんでもんな、同じ顔をしているのだ。親戚関係とかなのか。いや、それにしては全員、無言である。チラッと互いの顔を見ては、すぐに目を

逸らすなどしているのではないか。どう見ても初対面、どう見ても他人同士の雰囲気。なのに全員、顔がそっくり。これはいったい、なにごとなのだ。

この異様な状態を説明するためには、少々文字数を割かなければならない。ことは澄んだ青空を反転させたように複雑なのである。

鳥取県の東部に位置する青谷町。そこは弥生時代を生きた人々の痕跡が地中から頻りに掘り出されるスポットとして各方面から注目を浴びている。通称「青谷弥生人」と呼ばれる彼らの頭蓋骨もあまた出土していて、ある時にその一個体を精巧に復元した模型が作られた。そしてそれは公募によって「青谷上寺朗」と名付けられた。出土した所が青谷上寺地遺跡という名だったことに由来を持つ。

まあ、ここまではありそうな話ではある。ギアが変速するのは、この後だ。

せっかく作った「青谷上寺朗」。これをもって、青谷弥生人の存在をもっと世間に強くアピールできないものだろうか。鳥取県庁の職

員たちは、頭を悩ませた。そして、最終的に弾き出された答え。それは「青谷上寺朗」に似た顔の人たちを全国から募集して、『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』なる一大イベントを開催することであつた。

なんだ、それは。

まったくもって話の飛躍の角度が未知的で、くらくらする。弥生人の「そっくりさん」が競い合う大会なんて、いままで冗談でも聞いたことがない。ところが鳥取県庁は本気であつた。大々的にこのグランプリの開催を宣言し、全国各地から「我こそは弥生人に似た者である」と名乗りを上げた応募者たちの顔写真を選考した。そして予選を見事に通過した十名の強者たちが、本日青谷町で開催される『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』に参加するため、こうして鳥取県庁前に集合していたのである。同じ顔の人たちが集っているのはそういうわけで、要は皆「青谷上寺朗」に似た顔の持ち主たちなのである。

ほんとに、なんなのだ、それは。

同じ顔が集まれば

私はなんの因果か、今回の『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』のレポート、つまりこの文章の執筆を担当することになり、これから一体なにが起こるのかを目撃するために、参加者たちの集合場所である県庁前に立っていた。

関西圏からやってきた「そっくりさん」たちが、次々と自家用車の運転席から降りてくる。ひとり、またひとりと、増えていく同じ顔。誰も彼もが、弥生人の雰囲気を感じて、そこに濃く滲ませている。それは実に奇妙な景色であった。

弥生人と聞くと、さっぱりとした造りの顔を想像しがちだ。しかし「青谷上寺朗」は縄文人にも濃いルーツを持っているため、どちらかといえば印象の強い顔つきをしている。それに似た「そっくりさん」たちが本日は大勢集まるのだ。県庁前には濃縮された古代の空気が早くも形成されようとしていた。誰もがソワソワとしているのが見て取れる。グランプリを前にしてナーバスになっていることもあるのだろうが、その前にまず、互いが互いにどのような声をかけるべきなのかについて考えあぐねているのだろうか。そりやそうだ、ここに集まった人々は「青谷弥生人の一個体の復元模型に顔が似ている」という共通点しか持っていないのである。もしここに集まっているのが本物の弥生人であれば、「はじめまして！皆さんは普段、

どんなネズミ返しを使っていますか？」とか「こんにちは！水耕栽培について話の花を咲かせられたら幸いです！」なんてコミュニケーションを取ったりすることができ

るわけだが、いかんせん「そっくりさん」である彼らは現代人である。声をかけるとして「……顔、似ていますね」くらいが関の山であろう。なんとも言えない色調が漂い続けている間に、大型バスが県庁前へ到着した。いまから「そっくりさん」たちは、グランプリの会場がある青谷町へと移動するのである。無言を貫きながら、彼らはそろそろと乗車を開始した。

私もそれに続く。そして、ぎよつと。バスの中には、東京や屋久島などから飛んできた「そっくりさん」たちが、すでに座席にスタンバイしていたのである。鳥取砂丘コナン空港でピックアップされた彼らは、県庁から乗り込んでくる自分と同じ顔の「そっくりさん」たちをじっと眺めていた。どういう光景なのだ、これは。

これで総勢十名のグランプリ参加者が揃った。青谷弥生人のツラだけがみっちり詰まった世にも稀なるバスは、厳かに鳥取市内を出発した。引率を担当する県庁職員が「そっくりさん」たちの人数確認を行おうとしたが、全員が同じ顔なので、バグって何度も数え直していた。

晴天と鳥取県庁の裏にそびえる久松山だけが、その様子を静かに眺めていた。

脳をじっと見る弥生人たち

会場到着の前に「そっくりさん」御一行たちが立ち寄ったのは、「青谷上寺地遺跡展示館」だ。そこはこの地で掘り出された弥生人の土器や木製品、そして例の頭蓋骨などが展示されている、小さいながらも密度のある施設である。

この目玉であるアイテムは、「弥生人の脳」。そう、青谷上寺地遺跡では、弥生人の頭の中からなんと脳みそが発見されているのである。これは実に珍しいことであり、日本で見ることができるのはこの施設のみであるという。

小さな壇に詰められたそれを、興味深そうに眺める「そっくりさん」たち。その中のひとりが「オレたちの脳も、こんな感じなのか……」と漏らしていた。顔は青谷弥生人そのものである彼らだが、脳みそまでそっくりかどうかは、誰も答えを持っていない。そのコメントになにかを返す者はなく、県庁の広報スタッフのカメラシャッターを切る音だけが館内に響いていた。

その静けさは、やがてグランプリを直前に控えた緊張感へと変わっていく。

展示館からほど近い場所にある青谷町の体育館。そこにはステージと、そして「青谷上寺朗」の模型とが設置されていた。ここが『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』の会場である。「そっくりさん」



たちは楽屋へと移動し、それぞれが戦いに向けた準備を始めた。

地域の住民たちが、この奇祭を一目見ようと、次々に会場へと詰めかける。見れば「推しのそっくりさん」の名前が刻まれたうちわを手にはしている人たちもいる。取材カメラも山のように集っている。さっきまで無言でバスに乗り、また神妙に脳みそを眺めていた彼らは、いつの間にかこんなスターになったというのか。

審査員席には、鳥取県知事をはじめ、地域の各分野の代表がメモを片手に座っている。そう、これ

はグランプリであるわけだから、当然審査の目が入る。会場のお客さんや、ネット配信を見守る人たちにも投票権が与えられており、最も得点の高かった「そっくりさん」がシンデレラ弥生人となるのである。

私は会場席の隅に座り、謎の熱気と高揚とに包まれていく体育館内を見渡しながら、こんな思いを強くよぎらせた。

「そもそもなんで、青谷弥生人に一番顔が似ている人を決めなきゃいけないんだっけ……？」

これ、開幕

そんな私の疑問をかき消すように、大音量で華々しい音楽が流れる。そしてタキシードに身を包んだMCが登場し、『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』の幕が上がる。

「そっくりさん」たちには、それぞれにアピールタイムが与えられている。自由なパフォーマンスを展開し、いかに自分が青谷弥生人に近い者、情熱を持った者であるかをステージの上で主張するのである。

いったい、どのようなショーが披露されるというのか。短い時間で弥生土器を焼き上げたりするのか

まず一番手の青柳純二あおやなぎじゅんじさんが口火を切る。東京から参戦した彼が披露したのは「鳥取」をテーマにした自作のオリジナルダンス。かつて振付家をしていたという彼の軽妙な舞いからは、豊作を願う弥生人の姿が浮かび上がる。なによりも長髪が特徴的な青柳さんの風貌はまさに「青谷上寺朗」そのもので、かなりの得票が期待される。初手から優勝候補が現われてしまい、他の「そっくりさん」たちは舞台裏で震え上がっていることだろう。

二番手は同じく東京から参戦の石笠貴土いしのたかしさん。彼がステージに携えてきたのは、エレキベースである。しっとりしたメロディを奏でながら、この大会に出場した思いを穏やかな口調で語る。会場から

は大きな拍手。弥生時代に「電力」という概念はないので、エレキはマイナスポイントになるかと思われたが、石笠さんは弥生人を連想させる朴訥ぼくとつさを出力させることによって、それをすべてプラスポイントへと転じさせてみせた。

三番手にも東京からの参戦者が続く。牛山裕樹うしやまひろきさんは「青谷上寺朗は私自身です」というキャッチコピーを自らに冠し、堂々とステージの上に立つ。黒髪、長髪、日に焼けた肌。似てる、めっちゃ「青谷上寺朗」に似ている。まるで復元模型が命を宿して歩いているかのような。会場からは感嘆の声が上がる。牛山さんは弥生人になりきっての演劇的パフォーマンスを熱量を込めて展開、会場や審査員に強い印象を残して風のようにステージから去った。

大会のポルテージは天井知らずで上がっていく。四番手に登場したのは、大阪からやってきた春日連太郎かすがれんたろうさん。弥生土器のレプリカを携えて舞台上に登場した彼は、かつて仕事で子どもたちに日本史を教えていた自らの過去を明かし、「私自身がいま、弥生人としての教材になる」という唯一無二のスピーチを展開した。「まあ、自分は（本当は）現代人のおっさんであるわけですが」と謙遜する場面も見られたが、いやいや、見た目は完全に青谷弥生人である。

五番手は、鹿児島は屋久島からやってきた清水大地しみずだいちさん。縄文村でお馴染みの地から、弥生人で名

を馳せるこの地にやってきた彼は、鳥取と弥生人への思いをマイクの前で語る。しかしスピーチの途中で緊張が手伝い、話の内容が飛んでしまうという軽いハプニングが発生。清水さんはそれでも一生懸命に話を紡ぐ。「自分はダイビンクのインスタクターで、自然相手の仕事をしています。青谷弥生人もまた海と共に暮らし、自然と向き合って生きていました。そこが自分と彼らとが繋がる点です……」。この訥々とした喋りが、



逆に好印象を与えた。べらべらとよく喋る弥生人など、弥生人ではないだろう。清水さんは顔もそうだが、語りのトーンがまさに青谷弥生人の「そっくりさん」であった。八番手は兵庫から参戦の中川剛さん。彼はスピーチで自らの趣味が「パン作り」であることを述べ、そして弥生時代には米ばかりではなく小麦の栽培も開始されていたという教養を展開、つまり自分はパンを作ること、弥生人とのリンクを結んでいるのだ、というアカデミックかつクリティカルな一撃を放つ。「そっくりさんグランプリ」の候補者たちは、強打者揃いである。七番手で登場したのは服部学さん。奈良からやってきた長髪の「そっくりさん」はエレキギターでオリジナルソングを披露。ロックスターのような貫禄をたたえた彼がひとたび演奏と歌声を繰り出せば、会場は手拍子でひとつとなる。それはまるで秘祭のような景色。その時の服部さんは、民衆の情動を操るのが得意な、まるで卑弥呼のような姿を立ち昇らせていた。

八番手に控えていたのは、ダークホースの師岡宏典さん。東京から参じた彼は「なんとなく応募していまこの場にいます」と、あえてテンションの低い位置からスピーチをスタート。そして「私にはなにも武器がありません。あるのは弥生人にそっくりなこの顔だけです。だから、存分にこの顔を見てやってください」と言ったかと思うと、見事な無表情でもってマイクの前立ち尽くした。その新手的パフォーマンスに、大いに沸く会場。もはやこは弥生人パフォーマンスの山本尚哉さん。アコースティックギターを抱えた彼は弦を爪弾きながら、弥生時代の大地の情景を思わせるような楽曲を披露した。よく聴けばそれは、『はじめ人間ギャートルズ』のテーマソングであった。選曲が秀逸すぎる。体育館の中に、二千年前からの風が吹く。うちわが客席のあちらこちらで揺れる。ファンを最も獲得したと思われた、山本さんのアピールタイムであった。ちなみに人前です歌ったのはこれが初めてとのこと。

なんという度胸なのであろうか。そしていよいよ大トリ、十番手の吉田昌弘さんの登場である。大阪で営業職を営む身でありながら、彼はこの大会のために髭をたくわえ、髪を伸ばしたという。ビジネスよりも弥生人を選んだ者の登壇に、会場はどよめく。「弥生人はきつと太っていなかったはず」と思った彼は体を絞り込み、なんと6kgもの減量に成功したというのだから驚きだ。すべては自らを「青谷上寺朗」に極限まで近づけるため。その狂気にも似た思いを吐露したスピーチに、誰もが息を呑んだ。





どこにもない熱を孕んだ祭典はいよいよクライマックス。投票時間を経て、優勝者発表の瞬間を迎えた。

ドラマロールがなぜか生で演奏され（しかもそのドラムを叩く県庁職員もまた、青谷弥生人そっくりの風貌をしている。なぜ寄せた、スポットライトが左右に揺れ動く「そっくりさん」たちは皆、強張った表情を浮かべている。誰が現代の弥生人キングとなるのか。その様子を会場中が固唾を飲んで見守っている。

MCが、声を張り上げる。

「優勝は……エントリーナンバー十番！吉田昌弘さんです！」

割れんばかりの拍手。グランプリを見事ものにしたのは、弥生人に対してストイックな姿勢を買った、十番手の吉田さんであった。

発表の瞬間、彼は首から下げていた勾玉を天高くに掲げた。それはこの日、世界で最も気高く、そして最も意味不明な光景であった。私の胸は静かに震えていた。おかしい、最初は怪訝な気分でのグランプリに同行していたつもりだったのに、気づけば感動してしまっているのではないか。もはや私も弥生に取り込まれてしまったということなのか。

優勝賞品は、青谷町の特産でもある岩牡蠣であった。これを吉田さんが食し、そしてその貝殻がやがて数千年先に新たな貝塚を誕生させるのかな、なんて思ったりした。

闘争か、親愛か

大会の熱は冷めやらぬまま「そっくりさん」一同は県庁職員に引き連れられ、会場近くにある青谷上寺地遺跡へと向かった。

そこは弥生時代前期から古墳時代前期にかけて営まれた集落遺跡だ。そう、「そっくりさん」たちが大会前に見学した数々の文化財が掘り出された場所である。

掘立柱の建物跡、水田跡、貝塚などが発見され、また精巧な木製の器や美しいアクセサリー、それに中国大陸や朝鮮半島で製作された鉄製品など、膨大な遺物が出土している。この時代の生活や異文化交流の様子を察するための、重要な資料だ。

そこでは百体を越える弥生人の人骨がかつて発掘されたそうだ。いまは草の生い茂るばかりのその遺跡で、県庁職員の説明を真面目に受ける「そっくりさん」たち。なんでもここに眠っていた人骨からは、戦闘によるものと思われる殺傷痕がいくつも確認されているという。「そっくりさん」たちも、つい先ほどにグランプリという名の戦闘を終えたばかりだ。過去と現在とが、青々とした小さな土地の中で交差している。

遺跡の見学を終え、「そっくりさん」たちは疲れた体を休めるべく、三朝温泉へとバスで向かう。引率の県庁職員がまた人数確認をしようとするが、やはりバグって上手くいかない。どこまでも彼らは同





友情の焰ほのお

やがて朝が訪れ、青谷弥生人の「そっくりさん」たちはまたもどもぞと動きを開始した。

本日に訪れるのは、鳥取県が誇る弥生スポット「妻木晩田遺跡」である。

じ顔であり、青谷弥生人似なのである。

宿にそのままチェックインするのも味気がない。というわけで、温泉街をぶらぶらと散策する流れになった。足湯や公営の露天風呂などを見つけては、楽しそうにはしゃぐ「そっくりさん」たち。そう、気づけば彼らは仲良くなっていた。朝の無言の景色がウソのように、めちやくちやに仲良くなっていた。それは大いなる祭りを共に通過したからなのか、それとも同じ顔を並べているうちに親近感が爆発したからなのか。飲泉の熱湯に嬌声を上げ、写真を撮り合うそこに広がっているのは、「族」とも呼ぶべき、心を通わせた仲間たちの姿であった。

こうして『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』本番日は、見事に幕引きとなった。夜が訪れ、「そっくりさん」たちは三朝温泉の湯けむりに包まれながら穏やかな眠りに就いた。

鳥取県の西部に位置するこの遺跡には、かつて弥生人の大集落が広がっていた。フィールド内の「むきばんだ史跡公園」では、雄大な草原の中に竪穴式住居や高床式倉庫でもって当時の景観を再現している。キャッチフレーズは「甦る弥生の国邑」。突き抜けるような青空、草の濃い匂い、林から聞こえてくる雉の鳴き声などが織りなす情景の中に身を置いていると、本当に二千年前の弥生人の「ムラ」にタイムスリップしてしまったような心地を味わうことができる。まさに、現代に甦った弥生時代のパノラマであるのだ。

ここで「そっくりさん」たちは火起こし体験をすることになった。

スタートの合図と共に、一斉にまい切式の火起こし器を上下に運動させ、火だねを生成する。しかし、これがなかなか難しい。「そっくりさん」たちは、煙を発生させることすらできない。そう、顔が

そっくりなだけでは、弥生人の所作を完璧に再現できるわけではないのだ。引率の職員が「まあ、皆さん、実際はただの現代人ですからね」とでも言いたげに、にやにやしながら遠巻きに眺めている。

初夏の太陽が照り付け、彼らの額に汗を生む。それでも諦めずに続けるうち、やっと火起こしに成功する者が現れる。

「うわー、オレが最後だったらどうしよう！」

「負けたくない！」

そんな声が「そっくりさん」たちから上がる。もはやレース状態である。『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』火起こしテクニク編』なのか、これは。

ちなみに昨日グランプリを獲った吉田さんは、まあまあ火起こしが下手だった。けっこう本気で落ち込む彼を「国王は火とか起こさないからね」と他の「そっくりさん」たちが慰めていた。友情の焰が緑の大地で爆ぜている。

火起こしという戦闘を終えた彼らは、こんどは竪穴式住居の見学をわらわらと始めた。

「ただいま」と言いながら、住居内へと足を踏み入れていく「そっくりさん」たち。本当に弥生人の帰宅風景に見える。

当時の暮らしぶりを完全に再現しているわけだから、そこは実に質素な造りとなっている。特にアクトイビティのようなものはなく、とりあえず住居内部の中央に集まって集合写真でも撮りますかということになる「そっくりさん」たち。するとシャッターが押されるその瞬間に、ひとりが「わっはっはっはっはっ！」と野太い声で高笑いを奏で始めた。それが伝播し、気





づけば全員が竪穴式住居に笑い声を響かせる。わっはっはっはっはっ。肩を組んで、わっはっはっはっはっ。弥生が、キマっている。

祭りの風に吹かれて

「むきばんだ史跡公園」から向かった最後のスポットは、中国地方の最高峰・大山（だいたく）、その中腹に広がる牧場である。「そっくりさん」たちはそこで共に牛乳を飲んだり、野原に寝そべったりして、愉快な交流を続けている。

しかし、いよいよ別れの時間である。二日間、引率を担当していた県庁職員がスピーチをする。

「本当に皆さん、おつかれさまでした……！」

見れば彼は涙ぐんでいた。その姿に拍手を送る「そっくりさん」一同。この引率の県庁職員は、本企画を成功へと導くため、半年以上も準備を重ねていたという。きつと達成感から感極まってしまったのだろうな、と眺めていたら、次に繰り出された言葉に度肝を抜かれた。

「ここに集まった『そっくりさん』たちが仲良くなってくれたのが、本当に嬉しくて……」

なんだ、これは。なんなんだ、この平和でしかない景色は。

それはまさしく、『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』の本当のクライマックスの瞬間であった。

この二日間を振り返って思う。

ああ、これはれっきとした「祭り」であったのだな、と。

私たちは、顔が似ているとか似ていないとかに拠って、関係や文化を育んでいるのではない。一緒に同じ時を刻み、同じ遊びに興じることで、理解を生み出し、新たな関係や文化を育てているのだ。未知なる者同士は、こうした祭りの中で交流することで、無言を溶かしてきたのだ。そう、二千年前から、現代に至るまで。

人間とは本来的に、どんな他者とも、どんな異文化とも、コミュニケーションができ、そして共感し合えるのだということ。私は今回の祭りを通じて、強く実感した。

この数年で巻き起こったパンデミック、それによって我々は集うこと、群れること、触れ合うことから遠く離れ、なんなら分断さえも生み出してしまっていた。しかし、これから先にこのような祭りを描けば、きつとまた柔和に混ざり合えることができるだろう。希望にも似た地層を重ねることができるようだろう。

「青谷弥生人」というハッシュタグによって集った者たちは、二日がかりの祝祭の中で、なにかを分かち合った。それは実に壮大な遊びであり、気概に溢れた暇つぶしであった。二千年前にこの地を生きた弥生人たちもまた、永遠めいた暇の中で、祭りに興じたり、手の込んだ道具を作ったりしながら、営みを紡いでいたのだろう。

時が歴史を動かすのではない、人の出会いと遊びこそが歴史を動かすのである。

『青谷弥生人そっくりさんグランプリ』とは、遠い過去と現在点とを有機的に繋ぐ、豊かな戯れであったのだ。

また必ず再会することを誓い合い、「そっくりさん」たちはそれぞれ、それぞれの帰路へと向かった。その様子を、晴天と大山だけが見守っていた。



ワクサカソウヘイ／文筆業・制作業。新刊『出セイカツ』(河出書房新社)発売中。その他著書に『今日もひとり、ディズニーランドで』(幻冬舎)、『ぶざける力』(コアマガジン)、『ヤバイ鳥』(エイ出版社)など。どちらかといえば縄文人寄りの顔。今回の一泊二日の道中、弥生人を警戒して棍棒を携えていた。

青柳純二さん (神奈川県)

心に残った事をベスト10方式で発表!

第10位“うちわでの出迎え”青谷に到着した時、たくさんの方々がうちわで迎えてくれた。鳥取では弥生人そっくりさんがSMAP並みの人気! **第9位“規模のデカさ”**グランプリイベントにテレビなどの取材がたくさんいてビックリ! **第8位“同じ顔の10人”**そっくりさん10人と同じ時間を過ごすのが妙に居心地がよかった。他のそっくりさんと話すときニヤけてしまう自分がいた。 **第7位“疎遠の知人から連絡”**テレビなどで流れたせいか昔の友達などから連絡がきた。弥生人そっくりさんは縁をも繋ぐすごいイベントだ **第6位“鳥取県みんな弥生人?”**イベントの関係者の方や鳥取県の地元の方々のお顔も、なんとなく弥生人顔が多かったような(笑) **第5位“知事の優しさ”**大会で優勝できなくて悔しがっていたら、知事が来て本当に慰めていただきました(笑) **第4位“そっくりさん達の奥さんや彼女”**そっくりさんのお連れれの女性がみんな美人でビックリ。弥生人顔はモテるのかな?(笑) **第3位“弥生人 choo choo トレイン”**弥生の村で10人そろってアドリブで踊った choo choo トレイン。振付師をやっていた自分の意見としては、もっとバズってよいかと(笑) **第2位“グループLINE”**大会が終わり、いつ間にか**弥生人そっくりさんのグループLINE**ができていて、みんな超仲良くなっていた。それに関係者も感動して涙した。それを見て自分も涙した。良い大会ですね。 **第1位 単純に、弥生人そっくりさん大会っておもしろい!!**



喜びの声が続々

そっくりさん 大集合ツアーの おたがきました!

石埜貴士さん (東京都)



あれから3ヶ月ほどが経ち、久しぶりに会う人たちが、「TVやニュースで見ました」「あ、弥生人だ」と声をかけてくれるようになりました。「縄文人!」とちょっと間違っている人もいたり。とっとり弥生の王国からいただいた名刺があり、そういう人たちに渡すと、「なにこれ笑」と面白がってくれたり、「いらねえ笑」と言いながらもらってくれたり。そうこうしているうちにもう無くなってしまいました。また作ってもらえるようお願いしようかな。そっくりさんのみなさんや、スタッフ方たち、参加していた人たちみんながいい人達で、どこかで誰かが笑っていて、とても**ピースフル**な雰囲気だったと話す、たいいていのは笑顔になりました。そういうイベントに参加でき、明るいニュースの一員になれたのは、ほんとうに嬉しいことです。感謝いたします。 とっとり弥生の王国初代国民 石埜貴士

中川剛さん (兵庫県)

そっくりさんグランプリに参加させていただき、ありがとうございました。

「あんた似てるで。応募しいや」と妻に言われたことがきっかけで、軽い気持ち(強制)で応募していたので、ファイナルに選ばれたのはまったくの想定外でした。そして当日。ゆるいイベントかと思いきや、出演者、スタッフ、

観客の皆さん全員がガチの本気で、ノープランで行ってしまったことを激しく後悔するとともに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。リベンジする機会がありましたら、次はもうちょっとだけネタ考えます。ありがとうございました。



牛山裕樹さん (東京都)

グランプリ大会にあたり、何かしらのパフォーマンスをしてもらいたいという。よっしゃ!これは徹底的にやるしかない!まずは見た目をもっと近づける事だ。髪を伸ばし、髭を蓄え、体型や顔色も近づける。よしよし中々近づいてきたぞー。次に、私が弥生時代の間人だという裏打ちされた知識がある。色々和自己流に調べ、青谷上寺郎のプロフィールを作り上げた。そして、それを披露する為の台本を書き、音楽も作った。いよいよ稽古だ!

何度も練習し、当日に備えた。果たして皆さんに喜んでいただけたかはわからない。ただ、これがきっかけで少しでもこの時代の事を知りたいたいと思っていたら嬉しい。鳥取に招待していただき、びっくりした事があった。それはパフォーマンスの為に作った上寺郎のプロフィールがほぼ専門家の皆さんの解析と同じであった事だ。弥生後期という生まれ育った時期、両親が縄文と大陸のハーフetc…。自分としてはインスピレーションで決めた事だったので、ただただビックリである。そして、そのビックリがまだまだ続いた。僕自身、**彼の兄貴ではないのかと思うほどそっくりな彼!**そう!彼こそ今回の優勝者吉田くん。その吉田くんの娘さんの御名前が、私の娘と同じ名前、同じ漢字だったのである。なんなのだ!これは!こんな不思議な結びつきの場を与えてくださった鳥取の皆さんにはただただ感謝しかない。



春日連太郎さん (大阪府)

当日、私は**人生初の緊張**を経験していました。それは、写真でしか見てない方々と、初めての土地で、見知らぬ方々の前で、何かを披露するというスタートだったからです。ところが不思議なもので、同じバスで移動し、地元の方々の温かい歓迎を受け、コンテストや史跡巡りをする中で、不安はなくなり、同じ参加者の方々の『弥生の縁』を感じるようになりました。この企画を考え実行された方々の勇気に深く感謝申し上げるとともに、今後も、折角頂いたこのご縁を大切に、鳥取県の自然の恵み豊かで歴史ある風土の素晴らしさ、県民の方々の温かさを周囲の人に伝えていきたいと思ひます。



清水大地さん (鹿児島県)

バスの中に全員集まった時の正直な感想は「面白い企画に応募してきた面白い人たちの集まりなんだろうなあ」「ただこんなに平和な企画に応募する位だから、全員イイ人なんだろうなあ」と思っていました。全てが終わってからもその感想は変わることはなく、「**面白くて平和な良い人たち**」が集まったそっくりさんツアー。そんな皆様と鳥取県のあちらこちらへ一緒に旅が出来たのはとても素敵な経験でした。ご案内頂けた鳥取はどことも素敵な場所ばかりで、必ずまた遊びに行きます。



服部学さん (奈良県)

正直、一位になれると思っていたので、選ばれなかったのは残念でした(笑)。実は「そっくりさんコンテスト」が企画される前(?)、青谷弥生人の復元像がネットで発表された時点ですでに身内の間では「コレ、似てるねえ〜」なんて言って笑っていたんです。なので、もう自信满满で鳥取県庁までやって来たんですが、ほかの出場者を見ると、やっぱり皆さん似ているものだから、挨拶しているうちにだんだんと自信無くしてきちゃって、テンションちょっと下がっていたんですね。でも、遺跡展示館に着くと応援の方々もいらっちゃって、お土産なんかも頂いてしまって、その時には僕はもう**すっかり笑顔で楽しく**なってきました。他の出場者の方も面白い方ばかりで、全力でコンテストに挑むことができましたよ!



師岡宏典さん (東京都)

私にとってこのイベントは「暗闇の中の一筋の光」みたいなものでした。妻が私の写真を(勝手に)応募したときを思い返してみると、コロナ感染拡大が続いて「自粛」という重苦しい空気が街中に漂っていました。そんな中、このイベントのグランプリ選出の話を書いたら聞いたとき、いつぶりかわからないくらい大笑いしたことを今でも覚えています。こんなご時世にこんなイベントを本気でやる主催者にも感服しましたし、イベントまでの準備時間や鳥取で皆さんと過ごした時間、その全てが私にとって光り輝く貴重な思い出となりました。人生で初めて「**この顔で生まれて良かった**」と思いました(笑)。素敵な時間を本当にありがとうございました。

山本尚哉さん (静岡県)

縁あって青谷弥生人のそっくりさんに選ばれました山本です。鳥取は何度か旅行で伺ったことがありますが、まさかこのようなイベントに参加させていただくために、再び訪問するとは思いませんでした(笑)。遺跡や展示館の見学、火起こし体験のように、**弥生時代を思い出す?**いや、知見が広がる体験をしたり、大山のふもとで牛乳を飲むという謎のイベントもあったりと、とても充実した2日間を過ごすことができました。最後に、このような素敵なイベントを主催していただいた関係者の皆さま、全国のそっくりさん達を温かく迎え入れてくださいました鳥取の皆さまに、厚くお礼申し上げます。



そっくりの皆さんに 青谷弥生人そっくり グランプリ&大 感想をお寄せい

吉田昌弘さん (大阪府)

とても非日常的な、特別な二日間でした。全ての時間が楽しくて、ただ、一瞬冷静になると、この謎の集まりは何なんだろう、夢か?って思っていました(笑)。応募した時は面白半分どころか、面白全部だったので、まさかこんなに自分の人生の中でも充実した、特別な時間を過ごすことになると思いませんでした。ツアーを通じて出会えた皆さんもいの方ばかりで、そして何よりグランプリを獲得できたというのは、私が**今まで生きてきた中で一番輝いていた瞬間**かもしれません(身内の受け入れは別として)。たまたま顔が似ていて、たまたまネットで知って、何となく気が向いて応募して…。巡り合わせというのは数奇なものだなと感じました。本当に関わっていただいた皆さんにお礼が言いたいです、ありがとうございました!!



上寺朗最期の瞬間を再現中

審査員として参加

近本福子さん (福岡県)

昨年末新聞でそっくりさん募集を見つけ、家族にジビエを食べさせたい一心で**夜中こっそりヒゲを描いて**写真を撮り応募しました。そこから1月末には特別賞と賞品をいただき5月のグランプリにも招待してもらい、本当に楽しいことばかりでした。グランプリ優勝目指した10名の熱い戦いに感動し青谷町の方々の温かい歓迎にも感激しました。食べ物も美味しかったし大山は壮大で絵のように綺麗だったし三朝温泉の湯は最高だし家族一同鳥取県の大ファンになりました。来年新しい青谷上寺地遺跡の施設に行く予定です。本当にありがとうございました楽しかったあ!!



審査員として参加 片田遥仁さん (大阪府 小学生)

「お兄ちゃんももらった特別賞」

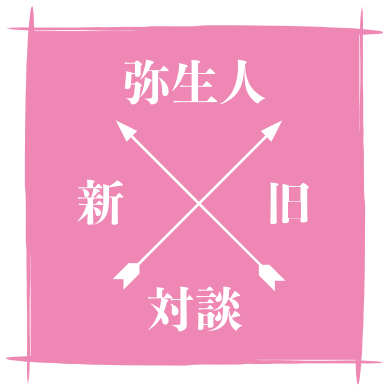
鳥取砂丘、大山、何度も家族旅行で訪れた鳥取県で、晴れ舞台に登って特別賞をもらえてうれしかったです。青谷上寺朗と同じ顔をしたみなさんと一緒にバスに乗って温泉や昔の家がある遺跡公園を巡ることができていい思い出になりました。三朝温泉の旅館の豪華な山海の料理とたくさんの広い温泉、大山を一望できるホテルの一番上の階のレストランで食べた昼ごはん、とてもよかったです。一番の思い出は、やっぱり大山の牧場で飲んだ冷たくておいしい牛乳の味でした。**テレビに鳥取県のことや特別賞を渡してください平井知事がでてるのと嬉しくなります**。お世話になったみなさん、ありがとうございました。また鳥取に行きたいです。



審査員として参加 片田悠仁さん (大阪府 中学生)

「青谷弥生人コンテストで特別賞を頂いて」

弟と二人で特別賞に選ばれて鳥取県に行けると聞いてとってもうれしかった。幾千年の時を経て、青谷上寺地遺跡の場所に立って青谷上寺朗と自分の顔が似ているということ不思議な気がした。遺跡の発掘や研究をされていた方から直接お話を聞いてよかった。DNAの保存状態が奇跡的にすばらしく遺伝子の検査ができて顔の形を復元できたという現代の技術も驚きだ。鳥取県立むぎぼんだ史跡公園のたくさんの復元された竪穴式住居の壮観、そこでチャレンジした昔の火おこし、弓ヶ浜半島や隠岐の島を一望できる景色の素晴らしさ、きっとこれから多くの人が訪れて感動することだろう。**顔の似たお兄さんたちとの鳥取の小旅行は極上の思い出**になった。みなさん、ありがとう。鳥取県大好きです。



実現不可能と言われた二人の対談がついに…!

弥生人に最もそっくりな現代人 現代に甦った弥生人

吉田昌弘 × 青谷上寺朗

2022年8月末、文字通り弥生の顔となった男二人が、同じ顔を突き合わせ、そっくりさんグランプリの熱い記憶、冷めやらぬ余韻、そして、弥生人のこれからについて熱く語り合った。青谷弥生人そっくりさんのコアなファンだけに贈る、奇跡の対談!

余は如何にして
弥生人となりし乎

青谷上寺朗(以下、上) 弥ッホー!七月に大阪府立弥生文化博物館のイベントで会って以来じゃない?
吉田昌弘(以下、吉) 久しぶりやね!相変わらずそっくりな顔してんな!
上 それはこっちのセリフ(笑)。今日はそっくりさんグランプリ(以下GP)&大集合ツアーの裏話や後日談を聞きたいと思ってるんだ。よろしくね。まずは昨年度の弥生人そっくりさんコンテストに応募した経緯から聞きたいのかな
吉 去年の十月に、弥生人の顔が復元されたというニュースをたまたま見たら、なんか俺に似てるな〜って思ってた。友達から「お前やん」っていうメッセージが来て(笑)。そしたら一か月後「お前絶対いける」って言いながら送られてきたんよ。ほな、応募してみよかと上 じゃあ僕が甦った瞬間から気づいてくれてたんだね!これは運命だ。ま、でもYouTubeにも出てたから(笑)。実は、甦った時の反響が大きかったおかげで、そっくりさんコンテストをやることになったんだ。ネットで盛り上がりつつあるし、そっくりな人集めたら面白いんじゃない?って。
吉 何があるか分からんもんなやね。
上 そこから髪伸ばしたりして、僕みたいなイケてる弥生人を目指したんだね。吉 髪は短かったから、去年の十二月の応募時からずっと伸ばしっぱなし。ちなみに応募写真ではドーキで買った安いカツラ被ってた。でも結構いい感じだったやろ?角度とかだいぶ工夫して写真撮ったからね。
上 あの応募写真、マスコミにめっちゃ使われてたね。写真が届いた時、すごい来た〜って思ったもん。髪と服で似せてるのに加えて、目がなんか世界に入ってた(笑)。そういう目で演技してる人がもう一人いて、それが牛山さん。でふたを開けてみれば二人とも役者だったという。
吉 牛山さん、当日の仕上がりもすごかったな。完全に役に入り込んでた。応

募写真、見るの楽しかったんやない?上 そうなんだよ。衣装とかポーズを工夫した写真がどんどん集まって、すごい面白かった。必死に寄せてきてる!って(笑)
吉 あと、筋トレと食事で6キロやせたね。ダイエット用プロテイン飲んで、ごはん減らして。それ以来、朝はプロテインだけや。
上 全然弥生っぽくないけどすごい!あと、見た目だけじゃなく、脳みそも弥生文化博物館で鍛えたんだよね。吉 身も心も弥生人にならなアカんと思っ、弥生時代の勉強したよ。
上 弥生に興味持ってもらえたのが一番うれしいな。じゃあ、準備万端でGPに乗り込めんだね。当日初めて十人が集まったけど、みんなの第一印象はどうだった?
吉 みんなめっちゃ仕上げて来たな!って。みんなも同じこと思ったんちゃうかな。バスに乗り込んだのが最後やったらから、乗った瞬間にみんながこっち一斉に見てくるんよ。で、僕もみんなの顔見るやんか。お互いにお前もか!って感じで全員苦笑い。
上 自分で思ってるなって思った?
吉 そりや思ったよ!特に牛山さん。顔を見て笑いが込み上げてきたもん。
上 会場に入って僕に初めて会ったでしょ。僕もみんなを見て笑っちゃった。うわ、僕がいつばいいる、動いてる、って(笑)。吉田さんは僕と初対面してどう思った?
吉 「気持ち悪っ!」って。
上 えっ?なんで?
吉 顔の出来がリアルすぎて。もちろん自分に似てるとは思ってたけど、それより精巧さにびっくりした。いまだに気持ち悪いと感じる。
上 すっごい気持ち悪い(泣)。でもそれって自分の顔が気持ち悪いって言うてるのと同じだからね!
吉 ほんまやな(笑)

燃えよ弥生人

上 リハーサルもそこそこGP本番がスタートだね。で、オープニング後はすぐにPRタイム開始。吉田さんの出番

※5 とうり弥生の王国推進委員 青谷かみし 史跡公園 準備室の濱利幸係長がドロールを担当。ドロール歴四十年の腕前の一端を披露した。ちなみに濱利幸係長はかねてより青谷上寺朗にそっくりと評判だったため、この日のために髪を伸ばし、ファイナリストと同じ衣装を着て登場。無駄に目立った結果、十一人目のそっくりさんとして後日、テレビに取材、放送されました。



※3 吉田さんは常業のお仕事先の傍ら劇団に所属し活動中。FMあまがさきでラジオドラマを放送している。牛山さん「裕樹」の芸名で俳優、俳優として活動中。吹替替え出演の近作「ランチリア王国を征服したクマ王」の物語は、名作児童文学を原作とした芸術性豊かなアニメーション映画。牛山さんはクモの強い重要キャラを好演している。各配信サイトでVOD配信も、最新出演作の映画「消えない虹」公開中。



※2 2022年1月に発表された「青谷弥生人そっくりさんコンテスト」入賞者十名の写真。全員がここからさらにクオリティーを上げてきたのはさすがである。
※1 初心者からメディアまで弥生を満喫できる世界唯一の弥生専門博物館。ここに行けば、人前に姿を見せることがなかったと伝えられる弥馬台の女王弥呼様を簡単に会えます。時流にあわせて「会に行ける弥生アイドル」に転換したのだから、あと、弥生大海渡君が「いい顔」をしているので、疲れた時に癒されに行くのもオススメ。GP後の六月、七月には青谷上寺朗の出版展示を行う。関西在住のそっくりさんも関西イベントに参戦。とうり弥生の王国の関西進出の足掛かりを作った。※改修工事のため2023年3月まで休館中。

は最後だったけど、やっぱり緊張してた？
吉 最初が青柳さんのあのダンスで「嘘やろ！」と(笑)

上 あれはビビった。青柳さんってりハで登場シーン練習した時、初めて掛けたBGMに一発で動きを合わせたでしょ？それ見て「うわープロだ」って鳥肌立ったもんで(笑)

吉 だいたい普通にスピーチした人の方が少なかったやんか。演奏あり、演技ありで。基本はスピーチって聞いてたのに(笑)

上 あんなことになるなんて思ってた前(笑)。でも、特技とか持ってた人に出れるタイプの人が集まって当然だよな。見てる方は最高に面白かった(笑)。でも吉田さんもしゃべり上手かったし、娘さんに嫌がられた話も面白かったよ。吉 弥生人になり切り出してから、娘に「隣歩かんとて」って言われたんよ。言われた瞬間はショックやったけど、後で考えたら面白くてたね。ま、ぶっちゃけ見た目のそっくり度で審査するっていうルールだったから、スピーチの内容はほとんど影響しなかったと思うけど(笑)。そういう意味では師岡さんが一番コスパが高いパフォーマンスしてた。

吉 あれが良かったらもう敵いませんわ(笑)

上 自分のPRを終わって自信はあった？

吉 正直自信なかった。応募した時が自信のピークで、後はずっと下り坂(笑)。十人が発表された時に他の人の写真を見て結構下がって、集合した時にみんなの仕上がりを見てさらに下がって、PRタイムで完全に自信喪失。そういうあの時のドラマロール長すぎやうだ！

上 でしょ！狙い通り。あそこが一番の山場だから、生ドラマロールとスポットライトはどうしてもやりたかった。ちなみにGP決定から表彰までの演出は「たかの〇梨エステティックシンデレラ大会」にインスパイアされている(笑)

吉 目の前で演本さんがドラム叩いて「長いわあ〜」ってなってる上に、スポットもフェイント入れてくるし、本当にドキドキ、いや土器土器したわ(笑)

上 スポットが吉田さんに当たった瞬間、首にかけてた勾玉にキスをして掲

げたでしょ。あれ、かつこよかった(笑)。事前に考えてたの？

吉 ドラムロールの最中に思いついたな。土器土器の割に余裕あるじゃん。あのシーン、僕は感動したけど、お知り合いにはツッパで酷評されたね(笑)

吉 そうなるよ。「吉田さんの大変お悪いところがあるよ。」って。けど調子に乗った感じがあかんかったみたい。

上 でも同行ルボ書いてくれたワクサカソウヘイさんはあれを見て、吉田さんにスター性を感じたって言ってたよ。

吉 ほんまか！それはうれしいわ。

上 GPの後は三朝温泉に泊まって、次の日あちこち行つたでしょ。どかが印象に残ってる？

吉 全部面白かった。何するにもそっくりのみんなと一緒にやったし。GP終わったら一瞬で仲良くなったからね。顔が一緒やから、異常に気が合った(笑)。もうね、人生で最高の二日間やったね！別れる時が寂しかったもんな。

弥生人自身あるいは困難な存在

上 GPに選ばれて周りからの反響がすごかったんじゃない？

吉 まずイベント当日にスマホに大量の通知が来てた。ヤフトップに出たしLINEの一番上！一個だけ出るニュースに僕の顔が載ってたらいいんよ。それ見た人がたくさん連絡くれて、三朝温泉に着いてスマホを見たらいLINEの未読が400件！

上 LINEニュースはすごいな。大阪に帰ってから職場とかではどうだったの？

吉 出社したら大歓迎。「国王！国王！」って盛り上がりがあった。あと上司に鳥取に営業に行けって言われた(笑)

上 いっそ鳥取に営業所新設して国王職で赴任してきたら(笑)。他に私生活が変った毛切らってある？

吉 髪の手切らたわ(笑)。今年の猛暑かなわんかったわ(笑)。今年の変化は迷惑にしかかかってないのね(笑)。人生向上きになるような、いい変化はないの？

吉 いや、まだない。

上 今なかったらもうないな(笑)

吉 あ、そういう仕事で病院に出入りするんやけど、看護師さんが速くから僕のこと見つめながら指差してくれたな。上 それ、後ろ指差されただけじゃん。吉 あと、娘の小学校の参観日に行ったら、子どもがいっぱい寄ってきてくれたよ。「弥生人！弥生人！」って。けど周りのお母さん方の視線は冷たかった(笑)

上 小学生に珍獣扱いされてる…。

上 そういや、僕の御姿を象つた神聖なるGPトロフィーあげたよね？あれももちろん自宅に飾ってるよね！

吉 絶対無理。そんなしたら自分の黄金像飾ってる自分大好きな奴と思われる(笑)

上 あれプラスチック製で安っぽいけど、すごく手間かかって、僕を三次元スキャンしてデータを作るのに三日、3Dプリンター出力に三昼夜、塗装して銘板付けるの一日で延べ一週間はかかっている。我々文化財局の総力を結集して作ったからね！

吉 スッカスカに軽いから、もっと簡単に作つたと思つた(笑)。大事にするわ。上 副賞はブランド岩ガキ「夏輝」*。僕が港で厳選して送つたけど、堪能してくれた？

吉 あれね、友達と二人で食べたけど、デカすぎてビビった(笑)

上 弥生人も岩ガキいっぱい食べてたけど、あんなに大きいの見たことない。一個1キログラムあるからね。地元の人もめつたに食べられない、一個〇千円の高級品。吉 やっぱそれぐらいするんや！〇千円を「トウルツ」って五秒ぐらいで食べたわ(笑)。あれ、今までの人生で食べた力キの中で、一番おいしかった。上 友達心底うらやましい(笑)。僕が直接持つて行って、一緒に食べたらよかった！

これからの「弥生人」の話をしよう

上 真面目なことも聞くけど、弥生時代のイメージって変わった？

吉 そらあ変わったわ。邪馬台国とか稲作始まったとか、学校で習ったことしか知らなかったから。勉強するいい機会になつたし、親近感がわいてきたよ。今まで気にしてなかったけど、家の周りの遺跡とか古墳が急に目に入ってきだした。

上 それはすごくうれしいな！

吉 僕をきっかけに皆さんに遺跡に興味持つてもらえるといいなあと思って。でね、ユーチューブとか動画の投稿を始めたんですよ！

上 すごい！僕は諸事情でユーチューブできないからな(笑)

吉 一緒に勉強しようや、ぐらいいの感でやっていけたらと思ってる。リアル上寺朗として弥生を伝道してくわ。君また長い眠りについてもええで(笑)

上 ええ。一緒にやってみようよ、そもそも僕がいないと「そっくりさん」が成立しないじゃん(笑)。じゃあ、最後に吉田さんの今後の野望を聞きたいな。

吉 SNSで弥生を発信して、バズりたい！有名になったらレキシ*の弥生曲PVに出してもらえたらいいな。大河で「倭国大乱」*をやる暁にはリアル弥生人として主演する(笑)

上 壮大過ぎ！そもそもバズりたいってのがウケるんだけど。そういや今までバズつたことある？

吉 今やね。これが初めて。

上 フツ、僕は今回が二回目だからね。発掘された時に脳が見つかった、ものすごくバズつたから。全国紙一面トップ総なめ、世界的なニュースにもなったしね。で、今そっくりさんでそこそこバズってる。なんか、人生には三回バズ期があるって言うじゃない？だから僕ももう一回バズれるって信じてるんだ！

吉 モテ期みたいなの言うてるけど、初耳やで(笑)。ほな、一緒にもう一発当てて弥生ブーム起こそうや！

上 うん！日本列島中に稲作を広めよう！

吉 もう北海道まで広まり切つてるわ！

上 目指すや！行くで、相棒！

国王！

吉 君、既に一回死んでるやん！なんやこの弥生式漫才。もう弥めさせてもらうわ。

※6 材料費約三万円のGPトロフィー。なお、3Dプリンター出力中の絵面があまりにコールドブレイだったため、ついつい写真を撮ってしまいました。

※7 よくあるダジャレミミック的に「カキ」と読むかと思いきや、普通に「なつき」と読む。鳥取県内で採取された天然岩ガキのうち、一般の長さ13cm以上の高品質岩ガキのみを採れるブランド名。夏輝*の中で、沖合漁場で採取された胴回り33.5cm以上の超大型個体には「砂丘の罫」のラベルが追加され、夏輝の最上位グレードとされた。吉田さんは「キリキリ砂丘」の罫になれなかつた(笑)をお送りしておいた。

※8 吉田さんのお住まいの相原市には、ゆるかわな絵が描かれていて、そこで著名な高井田侯爵(古墳時代)や、弥生土器の産地として多数出土した船橋遺跡(旧石器時代)も中世。など有名遺跡が多数存在する。

※9 吉田さんは2022年9月に突如ユーチューブでテリクトックへの動画投稿を開始。弥生よりもネタばかり発信している気がするが、おぼろげにリリックを掲載しておくと、ちなみに先駆者ユーチューバー青柳さんのもので、ちよちよ弥生ネタ、自取ネタを上げてくれていて、こちらもリンク掲載。

※10 歴史マニアのミュージシャン、池田貴史のソロプロジェクト。歴史をテーマにした歌詞をフランクソノワンドに乗せて歌うという稀有な存在。2011年発表の「ラフソング」(狩りから稲作へ)は、考古学業界に衝撃をもたせて迎えられた。特に弥生系史跡公園の関係者からは、各公園で例年開催している遺跡フェスへの出演を希望する声が多く聞かれたが、遺跡での野外フェスが実現したのは2012年の「世界遺産劇場」編文あおもり三内丸山遺跡*であり、編文との実力差を見せつけられる結果となった。

※11 「魏志倭人伝」の「倭国大乱」に相対すること歴年「や」(後漢倭伝)の「倭国大乱」に「乱れ、更相攻伐、歴年主なし」という古史の記述によって、「二世紀後半頃の日本列島は戦国時代からの情勢だったと推測されている。この戦乱を収めたのが日本史上最も多量な人物、女王卑弥呼である。大河ドラマに向いているような気もしてはいるが、たぶん気のせいであろう。」



YouTube

弥生人そっくりさん チャンネル

K-MEN チャンネル

木晩田遺跡をゆかりのゆるキャラがご案内!



弥生の匠の技が光る木工品の数々

はじめまして！僕、あおやかみじろう青谷上寺朗の二次元形態「あおやかみじろう」。最近生まれたばかりのゆるかわキャラ。オリジナル上寺朗となんとかすみ分けて活躍しようと思ってるから、応援よろしくね！じゃ、僕が生まれた青谷上寺地遺跡を紹介してくね。



「弥生の港湾集落」 国史跡 青谷上寺地遺跡

青谷上寺地遺跡は、鳥取市青谷町にある、弥生時代前期の終わり頃（約二四〇〇年前）から古墳時代前期（約一七〇〇年前）にかけて営まれていたムラの跡なんだ。色んな種類の遺物がとてもよく残っていたことから、「地下の弥生博物館」とも呼ばれてるよ。それを象徴する出土品が三つの弥生人の脳。そのうち一つが青谷上寺朗のものなんだ。Oh! No!

当時、ムラの目の前には波の穏やかな潟湖（ラグーン）が広がっていて、日本海にもすぐに漕ぎ出すことができる天然の良港に恵まれた海辺のムラだったんだ。青谷上寺地遺跡の特徴を表す大事なキーワードは「ものづくり」と「交易」。

青谷上寺地遺跡には大きな謎があるんだ。二世紀頃に埋まった溝の中から一〇九体分もの人骨が出土しているんだよ。中には刃物で傷が付いた骨もあって、争いによって殺された人がいたようなんだ。実は、上寺朗さんも被害者の一人だ。二世紀頃の日本列島の様子を描いた中国の歴史書『魏志倭人伝』には「倭国乱れ、相攻伐すること歴年」と書かれていて、当時は戦乱の世だったみたいなんだ。それで、戦いによってたくさんの人が命を



弥生時代終わり頃（約1800年前）の青谷平野の様子（復元CG）

鳥取県とっとり弥生の王国推進課 青谷かみじち史跡公園準備室

☎ 689-0592 鳥取市青谷町青谷667 鳥取市青谷町総合支所2階
📧 0857-85-5011 ✉ tottori-yayoi@pref.tottori.lg.jp



青谷上寺地遺跡展示館

☎ 689-0501 鳥取市青谷町青谷4064
☎ 0857-85-0841 ✉ info-tenjikan@tbz.or.jp
🕒 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
📅 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の直後の平日、12月29日～1月3日
🚗 山陰自動車道 青谷ICより2分
🚶 山陰本線JR青谷より徒歩約3分
🚏 有（大型バス2台駐車可）



中国大陸・朝鮮半島からもたらされた品々

落としたんじゃないかって言われているけど、実際に何が起こったのかはよく分かってないんだ。二〇二二年・二〇二三年はその謎を解明するため、人骨が出土した場所のすぐ近くを発掘調査するんだよ。成果が楽しみだね。

そして、二〇二三年秋には青谷かみじち史跡公園がオープンする予定！弥生時代の湿地を復元した公園と、一級の弥生工芸の鑑賞や遺跡の学習ができる展示ガイダンス施設が誕生するんだ。僕と上寺朗さんも公園の顔として大活躍する予定！みんな、青谷であお〜や！

「とっとり弥生の王国」 青谷上寺地遺跡と妻



復元された弥生のムラ

ボク、大山町公式マスコットキャラクターにして、妻木晩田遺跡の名誉ムラ人「むきばんだ」だよ！ムキー！これからボクが遺跡の見所、楽しみ方について紹介するむきー！

妻木晩田遺跡は中国地方の最高峰大山のふもと、米子市と大山町にまたがる晩田山という小高い丘陵の上にあるんだ。丘陵のほとんどまるごとが遺跡で、面積は約一七〇ヘクタール以上。ばんだ好きの君なら、上野動物園十二個分って言えばピンとくるよね！これまでに全体の1割ぐらいが発掘調査されていて、弥生時代中期終り頃（約二〇〇〇年前）から古墳時代前期（約一七〇〇年前）にかけて造られた、竪穴住居跡約四六〇棟、掘立柱建物跡約五一〇棟が見つかったいるんだ。弥生時代の集落跡としては日本最大級なんだって！

遺跡は今、丘の上の広大なエリアが



「甦る弥生の国邑」

国史跡

妻木晩田遺跡



発掘された竪穴住居跡

「鳥取県立むきばんだ史跡公園」として整備されていて、弥生時代を体験できる「マイルドミュージアム」になってるんだよ。弓ヶ浜半島や日本海を一望できる最高に景色のいい場所にあるから、ぜひ遊びに来てほしいむきー！公園の一番の見所は何と言ってもまるごと再現された弥生のムラ。竪穴住居と高床倉庫あわせて二十棟近くを復元してるんだよ。緑豊かな丘の上で弥生の建物に囲まれていると、ほんとに弥生時代にタイムスリップした気分になれるよ！

公園の中にあるガイダンス施設「弥生の館むきばんだ」では、出土品や工夫を凝らした復元品で妻木晩田遺跡について学ぶことができるんだ。それだけじゃなくて、火起こしや勾玉づくり、銅鏡の鋳造体験といった、いろんな体験ができるんだよ。そのほか、年間を通じてたくさんイベントや体験学習会を絶賛開催中。毎年、春と秋にはビッグイベント、野外での弥生フェスティバルも開催してるんだ。お祭りの時には僕も出没するむきー！詳しくはホームページをチェックしてね。みんな、むきばんだに遊びにおいでよ！ウエルカムムッキッキー！

鳥取県立むきばんだ史跡公園

〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4
 電話 0859-37-4000 ✉ mukibanda@pref.tottori.lg.jp 無料
 時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 第4月曜日(その日が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日
 車 山陰自動車道淀江ICより5分 鉄 山陰本線JR淀江駅より徒歩約40分
 駐 有(大型バス3台駐車可)



大山(右奥)のふもとに広がる妻木晩田遺跡(左手前)

2023
AUTUMN
OPEN

とっとり弥生の王国に
新たな歴史を刻む

伝統工芸青谷和紙が包む重要文化財展示室
洗練の空間で、本物の弥生と出逢う

青谷かみじち史跡公園 Aoya Kamijichi Historical Park



史跡公園 水と緑に抱かれた癒しの弥生景観



ガイドンス展示室 弥生の大海原を感じる勇壮な復元造船



ガイドンス展示室 弥生に学ぶ本物の丁寧な暮らし

史跡公園完成イメージ



JR青谷駅から
徒歩10分

青谷ICから
車で3分

弥生時代
まで0分



重要文化財収蔵数1,353点 鳥取県初弥生人入居予定^{※1} 弥生人満足度No.1^{※2}

※1 青谷上寺朗様入居予定
※2 とっとり弥生の王国調べ(有効回答数1)